

# 全国学力・学習状況調査について

総合教育政策局 調査企画課  
学力調査室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

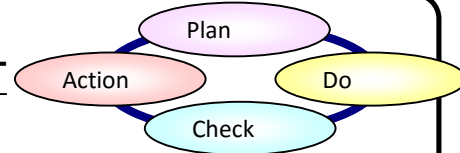
- I 全国学力・学習状況調査の概要 (P 2 ~ 5)**
- II 調査問題・提供資料 (P 6 ~ 9)**
- III 調査結果の活用 (P 10 ~ 21)**

# **I 全国学力・学習状況調査の概要**

# 全国学力・学習状況調査について

## 調査の目的

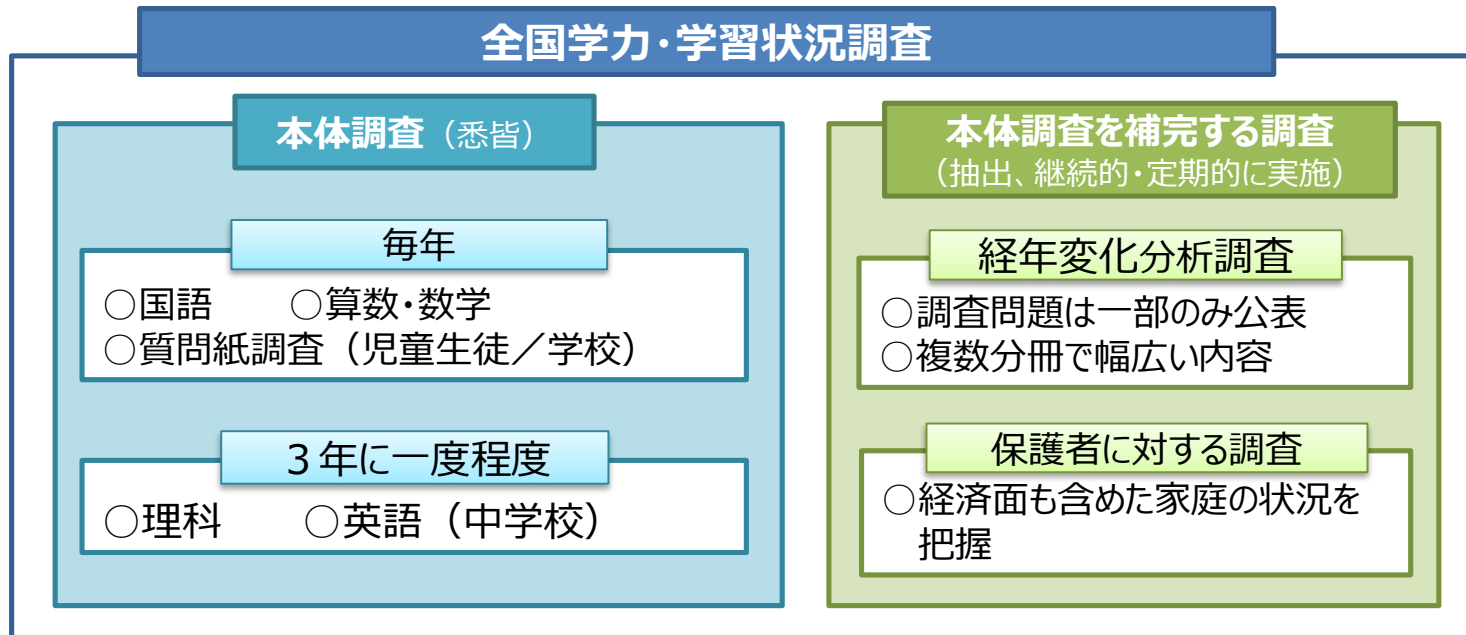
- 国としては、**全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の改善・充実に生かす**
  - 教育委員会としては、**自治体や学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かす**
  - 学校としては、**個々の児童生徒の学習状況を把握して指導に生かす**とともに、**学校全体として指導方法の検証・改善につなげる**
- 以上のような取組を通じて、**教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立**する



## 調査の概要

- 調査対象：全国の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒
  - 調査内容：①国語（毎年）、算数・数学（毎年）、理科（3年に1度）、英語（3年に1度、中学校のみ）  
②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査（児童生徒／学校）
- ※多様な児童生徒への対応として、点字・拡大文字・ルビ振り等、様々な資材を作成。

## 調査の枠組



# 全国学力・学習状況調査 13年間の実施状況

## 各年度の特徴

※国語、算数・数学は小学校中学校共に毎年実施

### ◆平成19年度～平成21年度

- ・悉皆調査

### ◆平成22年度

- ・抽出調査（抽出率30%）  
※希望利用校も併せると実施率は74%  
（約160万人）

### ◆平成23年度

- ・調査実施見送り（東日本大震災の影響等を考慮）

### ◆平成24年度

- ・抽出調査（抽出率30%）  
※希望利用校も併せると実施率は81%  
（約179万人）
- ・国語、算数・数学に加え、初めて理科を実施

### ◆平成25年度 ※以降、悉皆調査継続

- ・悉皆調査（「きめ細かい調査」）
- ・追加調査として、以下の3つを実施
  - ①経年変化分析調査（抽出）
  - ②保護者に対する調査（抽出）
  - ③教育委員会に対する調査（悉皆）

### ◆平成26年度

- ・悉皆調査

### ◆平成27年度

- ・国語、算数・数学に加え、理科を実施

### ◆平成28年度

- ・熊本地震の影響により、熊本県並びに宮崎県及び大分県の一部の学校で当日実施見送り
- ・追加調査として、経年変化分析調査（抽出）を実施

### ◆平成29年度

- ・追加調査として、保護者に対する調査（抽出）を実施

### ◆平成30年度

- ・国語、算数・数学に加え、理科を実施
- ・中学校における英語の予備調査（抽出）を実施

### ◆平成31年度（令和元年度）

- ・国語、算数・数学に加え、初めて中学校英語を実施

### ◆令和2年度

- ・追加調査として、経年変化分析調査（抽出）、保護者に対する調査（抽出）を実施予定

# 全国学力・学習状況調査の留意点

## 調査により測定できるのは学力の特定の一部

### 2. 調査事項

※平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学次官決定）より

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

(イ) **出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則**とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

### 5. 調査結果の取扱い

#### (5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、**調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要**である。

## 問題の難易度や種別による配点や重み付けを行っていない

- 本調査は、**設問一つ一つに解答類型を設け、その状況から児童生徒の課題等を把握・分析し、学習指導の改善・充実につなげることを目的**としており、選抜試験のように、合計点数によって学力を識別するための調査ではないことから、問題の難易度や種別などによる配点や重み付けを行っていない。
- 各設問の解答類型からは、正誤だけでなく、具体的にどこでつまづいているのかなどの様々な情報を把握することができる。

## 厳密な経年比較はできない

- 対象となる児童生徒が毎年異なり、また、**学習指導の改善・充実に使えるよう本調査の調査問題は全て公表**していることから、学力の経年変化を厳密に把握することはできない。

## Ⅱ 調査問題・提供資料





# 全国学力・学習状況調査 提供資料

## 教育委員会・学校・児童生徒へ調査結果、分析資料を提供

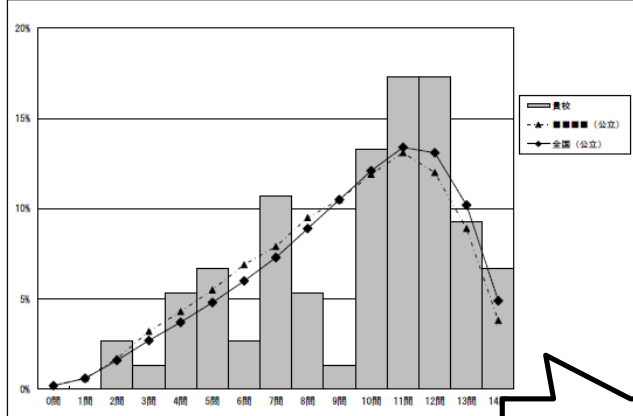
調査結果の分析に資する多様な資料を提供し、学校・教育委員会での活用を促している

## 学校・教育委員会への提供資料の一例

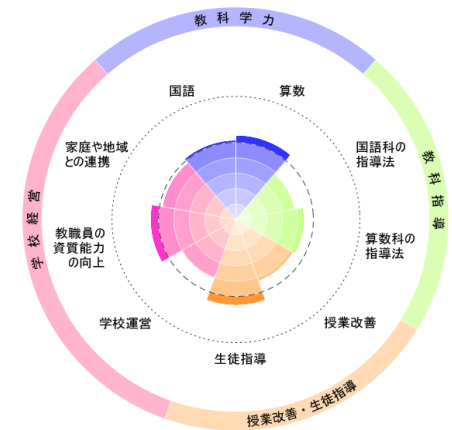
### 調査結果概況

調査年度	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
2500002小学校	75	9.6 / 14	68	11.0	3.2
■ (公立)	38, 637	9.0 / 14	64	9.0	3.1
▲ (私立)	1, 028, 177	9.3 / 14	66.5	10.0	3.1

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



### 調査結果チャート



全国及び所在都道府県の正答数分布との比較

全国を比較基準とする複合パラメータの平均値を教育委員会・学校別に示したレーダーチャート

### 学校/学級別解答状況整理表 (S-P表)

平成31年度全国学力・学習状況調査 学級別解答状況整理表【算数】  
2500002小学校 第6学年 1組

以下のデータは、4月18日以降5月7日までに実施した児童の調査結果である。ただし、全国(公立)正答率は、4月18日実施児童の集計値である。  
※付記欄(※)：4月19日以降5月7日までに実施した児童を表す。  
※解答状況の内訳については、「別添：平成31年度【算数】解答類型.pdf」を参照。  
※領域：A：数と計算、B：量と測定、C：図形、D：数量関係

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

上から下へ、正答数の多い順に児童生徒を記載

児童数	1組					2組					3組					4組					5組														
	38					76					38					76					38					76									
問題番号	2(1)	1(1)	4(1)	3(1)	2(2)	3(3)	4(2)	4(3)	2(3)	2(4)	1(2)	1(3)	3(4)	3(2)																					
領域	D	C	D	A	A・D	A	A	B・D	B・D	A・D	C	B	A・D	A																					
問題の概要	1900年か2010年までの間で、10年ごとの歩数の平均を求めよ。	長方形の面積は1200平方センチメートルである。長さが40センチメートルであるとき、幅を求めよ。	だいたい何分かで終わるのかを調べよ。	350-97の結果を求めよ。	2010年の歩数の平均を求めよ。	長方形の面積と歩数の平均を求めよ。	同様にコンクリートを注ぐことができる量を求めよ。	残り7000リットルの水を4人で分けよ。	二つの箱に入っている本の数を求めよ。	長方形の面積を求めよ。	二つの異なる長方形の面積を求めよ。	長方形の面積を求めよ。	長方形の面積を求めよ。	長方形の面積を求めよ。	長方形の面積を求めよ。																				
全国(公立)正答率	95.2	92.9	82.7	81.8	78.6	74.9	68.6	62.6	60.1	59.1	52.1	46.6	43.9	31.1																					
正答人数の割合	94.7	89.5	78.9	65.8	71.1	55.3	63.2	65.8	55.3	60.5	55.3	47.4	57.9	26.3																					
正答人数	36	34	30	25	27	21	24	25	21	23	21	18	22	10																					

平均正答率だけでは把握できない学校や学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことが容易になる

# 全国学力・学習状況調査 提供資料

## 学校・教育委員会への提供資料の一例

## 児童生徒への提供資料

### 問題別調査結果

集計結果

対象児童数		2500002小学校	■ 調査校 (公立)	● 全国 (公立)
		75	38,837	1,028,177

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

分類	区分	対象児童数 (人)	平均正答率 (%)	
			調査校	全国 (公立)
学習指導要領の領域	全体	14	68	64
	算と計算	7	61.0	60.5
	量と測定	3	80.9	50.2
	図形	2	40.8	75.3
	数量関係	7	75.8	65.6
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	8	65.2	60.2
	数量や図形についての技能	4	73.3	71.8
	数量や図形についての知識・理解	2	70.7	66.4
問題形式	選択式	5	76.8	73.6
	短答式	5	69.1	70.5
	記述式	4		

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分に属する問題数を合計し、その割合を算出しています。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点		問題形式		問題別正答率 (%)	
			算と計算	量と測定	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	調査校 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	長方形を直線と切ってきた図形の中から、台形を選びなさい。	台形について理解している。	47/A			○	○	○	92.0	92.0
1 (2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返しにして、同じ長さをのびのびと合わせることができる形を選びなさい。	図形の性質や構成要素に着目し、その図形を構成することができる。	47/B	51/B		○	○	○	60.0	58.6
1 (3)	減法の式が、赤された物の面積ほどのように求められているか、数や数量の表す内容に着目して選ぶ。	赤された物の面積の求め方を理解し、その求め方の説明を記述できる。	51/A			○	○	○	61.3	41.8
2 (1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選びなさい。	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。	37/A			○	○	○	96.0	95.2
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取ることができる。	47/B	37/A		○	○	○	78.7	75.5
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。	資料の特徴や傾向を関連付け、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。	51/A	37/A		○	○	○	61.3	49.5
2 (4)	流線と組みがきで使う水の量を求めるために、6÷0.5×2を計算することができる。	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。	47/A	47/A		○	○	○	58.7	57.7
3 (1)	350÷97について、引き算の97を10の0にした商にして計算するとき、ふさわしい算の組み合わせを選びなさい。	赤された減法に關して成り立つ性質を基にした計算の仕方を選択し、適用することができる。	37/B	47/A		○	○	○	74.7	80.5
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、減法の計算の仕方についてまとめたことを選び、成り立つ理由を記述できる。	減法の計算の仕方についてまとめたことを選び、成り立つ理由を記述できる。	47/B	47/A		○	○	○	32.0	30.1
3 (3)	被除数と除数にかける数や商の数を選び、800÷15を計算しやすいうちから計算する。	赤された計算の仕方を選択し、かける数や商の数を選び、計算しやすいうちから計算する。	47/B	47/A		○	○	○	65.3	72.3
3 (4)	1800÷6は、何分の代金を求めているかという問題を選びなさい。	赤された減法の式の意味を理解している。	51/A	37/A		○	○	○	49.3	40.8
4 (1)	だいたい何分後に乗り物を出発するかわかるかを知るために、調べる必要がある問題を選びなさい。	目的に適った伴って変わる二つの量を思いだすことができる。	47/B			○	○	○	86.7	81.3
4 (2)	何分後にゴンドラに乗ることができるかを求める式を書く。	赤された場面において、乗客の人数から必要な乗客を選び、立式することができる。	37/B			○	○	○	68.0	66.8
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方を考え、2.4分以内にはじめることができるかどうかを判断する。	場面の状況から、単位時間当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。	51/A	51/A		○	○	○	72.0	59.3

全国及び所在都道府県の領域別正答率との比較

平成31年度全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果

学校名	個人番号	組	番号	氏名
250002小学校	50381111	1		

## 国語

正答数 9 / 14問  
全体の平均正答率 8.9問

学習指導要領の領域等	正答数	全体の平均正答率
A 話すこと・聞くこと	1 / 3問	2.2 / 3問
B 書くこと	2 / 3問	1.6 / 3問
C 読むこと	3 / 3問	2.9 / 3問
D 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	3 / 3問	2.7 / 3問

問題形式

問題形式	正答数	全体の平均正答率
選択式	5 / 7問	5.3 / 7問
短答式	3 / 4問	2.0 / 4問
記述式	1 / 3問	1.7 / 3問

● 出題内容  
国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する内容について出題しています。

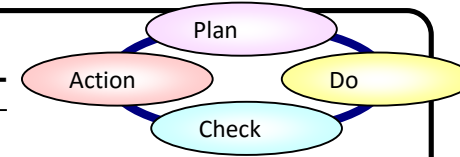
問題番号	問題の内容	結果	正答率 (%)	学習指導要領の領域等	問題形式
1	1 公共電話について調べたことを【報告する文章】で（資料2）と（資料3）をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選びなさい。	○	71.2	5・6	★ 選択
2	2 公共電話について調べたことを【報告する文章】の「（2）公共電話にどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選びなさい。	○	63.0	5・6	★ 選択
3	3 公共電話について調べたことを【報告する文章】の [ ] に、「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書く。	×	28.9	5・6	★ 記述
4	4 (1) 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [ ] 部分を、漢字を使って書きなさい（読者のためによう）。	○	42.1	5・6	★ 短答
4	4 (1) 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [ ] 部分を、漢字を使って書きなさい（友達にやさしく）。	○	69.5	5・6	★ 短答
4	4 (1) 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [ ] 部分を、漢字を使って書きなさい（かんしんをもってもらいたい）。	○	35.8	5・6	★ 短答
4	4 (2) 公共電話について調べたことを【報告する文章】の [ ] の1文を、接続詞「そこで」を使って2文に分けて書きなさい。	×	48.0	3・4	★ 短答
2	2 (1) 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の [ ] に入る、適切なことを選びなさい。	○	80.8	5・6	★ 選択
2	2 (2) 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の [ ] に、適切なことを選びなさい。	○	76.0	5・6	★ 記述
3	3 (1) 読み手について【知りたこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選びなさい。	○	88.3	5・6	★ 選択
3	3 (2) 読者への【インタビューの様子】の [ ] に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選びなさい。	○	81.4	5・6	★ 選択
3	3 (3) 読者への【インタビューの様子】の [ ] の場面における、質問の工夫として適切なものを選びなさい。	-	67.6	5・6	★ 選択
3	3 (4) 【インタビューの様子】の [ ] に、読者の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを選びなさい。	-	68.3	5・6	★ 記述
4	4 ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の [ ] に入る適切なものを選びなさい（雷より僕れよ）。	-	73.0	3・4	★ 選択

## **Ⅲ 調査結果の活用**

# 全国学力・学習状況調査結果の活用

## 調査の目的(再掲)

- 国としては、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の改善・充実に生かす
  - 教育委員会としては、自治体や学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かす
  - 学校としては、個々の児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすとともに、学校全体として指導方法の検証・改善につなげる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する



## 結果の活用状況

### 1. 都道府県間の平均正答率の相対的な差が縮まってきており、学力の底上げが図られている

- ・調査結果の分析・活用を通じて、各都道府県における学力向上策が充実
- ・都道府県間の平均正答率の相対的な差が縮まり、学力の底上げが図られた

### 2. 調査結果の追加分析により得られた知見を公表し、教育現場へ還元

- ・家庭の社会経済的背景（SES）と学力との関係の分析等が進められた

### 3. 学習指導要領の改訂等に、教科調査を通じて得られた知見を活用

- ・教科調査から得られた全国の児童生徒の正答・誤答の状況を分析、課題の抽出
- ・それらの蓄積を学習指導要領の改訂等に反映

### 4. 高等学校入学者選抜にも思考力等を問う出題がなされるようになった

### 5. 教育現場において、データを活用したPDCAサイクルが定着した

- ・教育委員会や学校においても、調査結果を活用・分析し、教育施策や学習指導を改善

# 1. 都道府県間の平均正答率の相対的な差が縮まってきており、学力の底上げが図られている

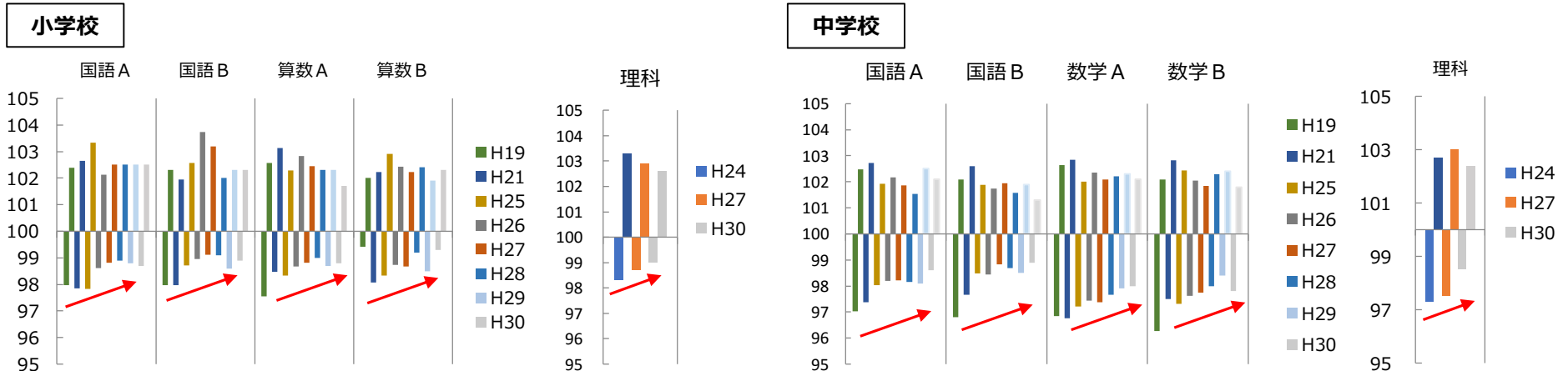
## ○平均正答率が全国平均から±5ポイント以上離れている都道府県の状況

ほとんどの都道府県が±5ポイントの範囲内。平均正答率との相対的な差が縮まってきている。

		小学校					中学校				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成19年度 (理科は平成24年度)	+5以上	なし	秋田 (+7.0) 香川 (+6.0)	秋田 (+6.3)	なし	青森 (+5.0) 秋田 (+7.5) 石川 (+5.7) 福井 (+6.2)	なし	なし	福井 (+8.4) 秋田 (+5.6) 富山 (+5.3)	福井 (+7.0) 富山 (+5.3)	秋田 (+5.1) 富山 (+5.8) 石川 (+5.3) 福井 (+6.8)
	-5以下	なし	沖縄(-9.4)	北海道(-5.3) 沖縄(-5.9)	沖縄(-9.2)	沖縄 (-5.4)	沖縄(-7.4)	大阪(-6.7) 和歌山(-5.4) 高知(-7.7) 沖縄(-8.1)	高知(-9.0) 沖縄(-14.6)	大阪(-5.6) 高知(-10.0) 沖縄(-13.2)	沖縄 (-9.6)
平成30年度	+5以上	秋田 (+6) 石川 (+6) 福井 (+5)	秋田 (+6) 石川 (+7)	なし	秋田 (+6) 石川 (+8)	秋田 (+5) 石川 (+5)	なし	なし	福井 (+6)	福井 (+6)	石川 (+5) 福井 (+5)
	-5以下	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	沖縄 (-7)	沖縄 (-7)	沖縄 (-5)

## ○標準化得点の状況 平成19・21・25・27・28・29・30年度で、平均正答数（公立）が高い3都道府県と低い3都道府県の標準化得点の平均を算出

下位県の平均正答率が全国平均に近づく状況あり。学力の底上げが図られている。



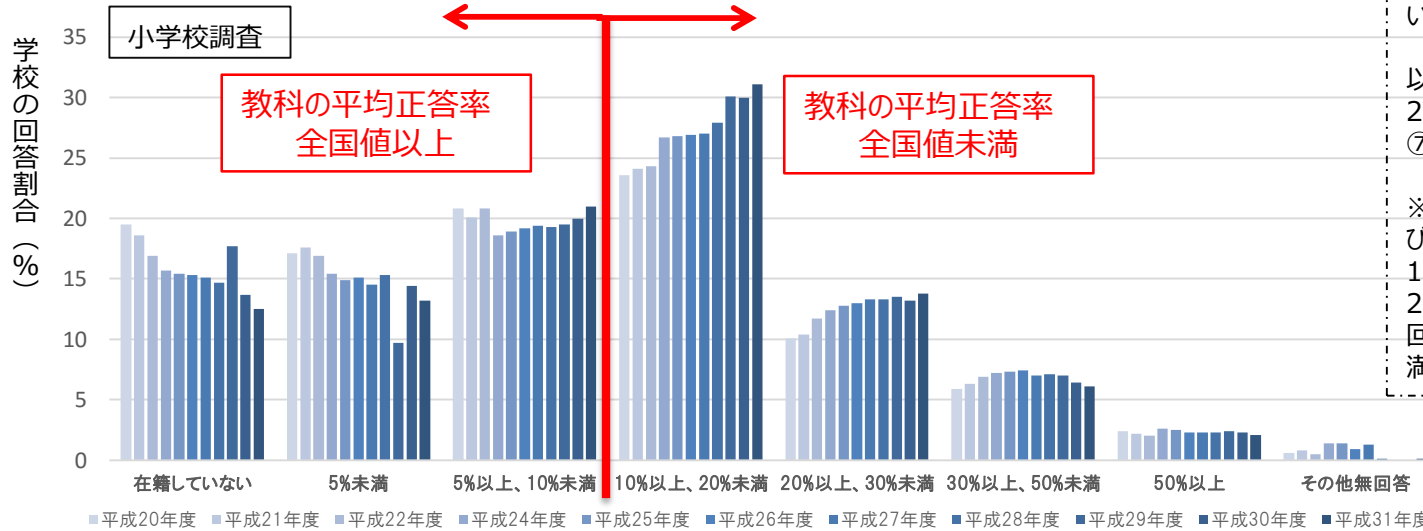
※ 標準化得点・・・各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点

## 2. 調査結果の追加分析により得られた知見を公表し、教育現場へ還元

学習指導の改善に向けた取組を進めている学校は、児童生徒の経済的な状況に関する学校の状況（就学援助率）に関わらず、平均正答率が高い傾向が見られた

○過去12年間にわたり、就学援助率が10%以上の学校は、全国平均正答率よりも平均正答率が高い傾向が見られた

就学援助率ごとの学校割合の経年推移（平成19年～平成31年）

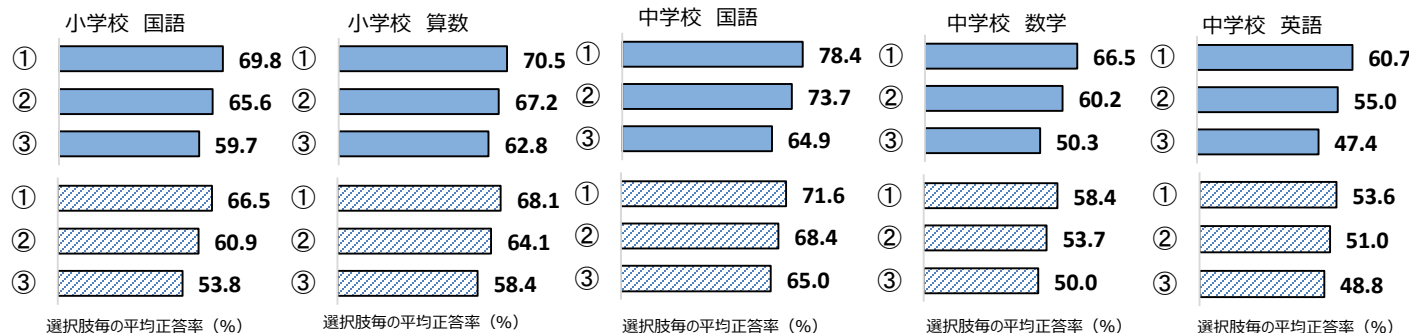


調査対象学年の児童生徒のうち、就学援助を受けている児童生徒の割合（選択肢）①在籍していない／②5%未満／③5%以上、10%未満／④10%以上、20%未満／⑤20%以上、30%未満／⑥30%以上、50%未満／⑦50%以上

※平成29年度～31年度の調査においては、15%及び25%でも選択肢の区切りを設け、「10%以上、15%未満／15%以上、20%未満／20%以上、25%未満／25%以上、30%未満」としているが、今回は、「10%以上、20%未満／20%以上、30%未満」と合計して集計している。

○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した学校の方がすべての教科において平均正答率が高い傾向が見られた

三重クロス分析（就学援助率×学校の取組×各教科の平均正答率）



① そう思う  
② どちらかといえば、そう思う  
③ どちらかといえば、そう思わない

※データは公立のみ

※「そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外

（平成31年度全国学力・学習状況調査結果より）

## 2. 調査結果の追加分析により得られた知見を公表し、教育現場へ還元

平成19年度の全国学力・学習状況調査開始以来、文部科学省・国立教育政策研究所による詳細研究を実施（約200万人×12年間のビッグデータ）

### ◆文部科学省による研究

平成19年度から現在まで約50件超

#### 【代表例】

- ・学力層に着目した指導方法と特性
- ・習熟度別・少人数学級指導
- ・児童生徒の生活の諸側面等の分析
- ・各教科の指導方法
- ・**家庭の社会経済的背景(SES)と学力の関係（お茶の水女子大学）**
- ・学力の経年比較に関する調査手法開発（東北大学）

### 保護者に対する調査結果（社会経済的背景と学力の関係）について

家庭の社会経済的背景 SES（Socio-Economic Status）：

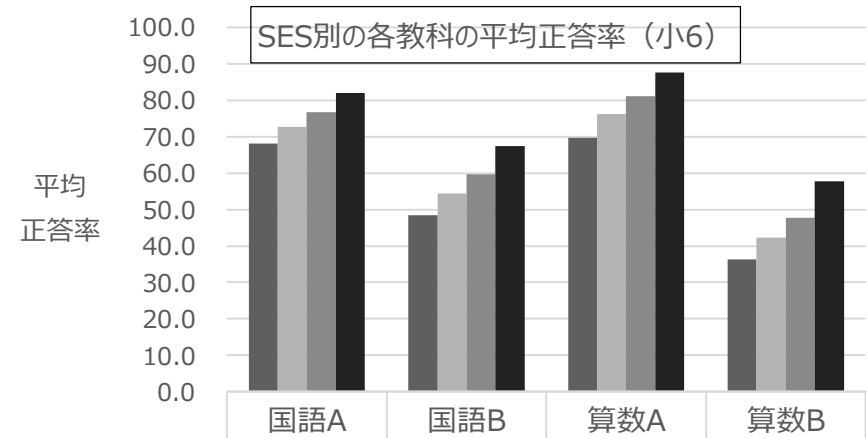
保護者調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三変数を合成し、作成した指標。

合成スコアを四等分し、Highest、Upper middle、Lower middle、Lowestに分割して分析。

＜本調査研究から明らかになったこと＞

- ☑ **SESは、子供の学力に一定の影響を与える。**
- ☑ **学校の取組により、SESの影響を縮小することができる。**
- ☑ **保護者の働きかけ・意識は、SESによらず、子供の学力に影響を与える。**

【注】「学力」は各教科の平均正答率を指す。



	国語A	国語B	算数A	算数B
■ Lowest SES	68.00	48.44	69.68	36.29
■ Lower middle SES	72.69	54.45	76.21	42.29
■ Upper middle SES	76.59	59.68	81.00	47.68
■ Highest SES	81.99	67.36	87.58	57.69

#### 保護者に対する調査の概要

- ・ 公立学校（抽出）の児童生徒の保護者を対象とした抽出調査。
- ・ これまで平成25年、平成29年の2回実施。
- ・ 保護者の子供への接し方、保護者の教育についての考え方、子供が通っている学校の状況、家庭の状況等に関するアンケート調査。

（平成29年度保護者に関する調査結果より；約14万人が対象）

## 2. 調査結果の追加分析により得られた知見を公表し、教育現場へ還元

平成19年度の全国学力・学習状況調査開始以来、文部科学省・国立教育政策研究所による詳細研究を実施（約200万人×12年間のビッグデータ）

### ◆ 国立教育政策研究所による研究

研究の基礎データとして幅広く活用

#### 【代表例】

- 世帯所得と小中学生の学力・学習時間
- 追加的教員配置の学力への影響
- 主体的・対話的で深い学びの推進状況の考察
- 調査結果の二次分析に関する研究

### (例) 学校自身の取組によって成果の上がった学校の実態

『全国学力・学習状況調査の結果の二次分析に関する研究 報告書』  
(平成29年3月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

「学校自身の取組によって成果の上がった学校」\*では共通して、過去に学力や学習状況に大きな課題を抱えた時期があり、教職員が試行錯誤を繰り返しながら、以下の粘り強い取組が重ねられてきた。

\*就学援助率が高く、各教科で継続的にみられる課題を解決し、児童生徒質問紙調査結果の特定項目の「強い肯定」の割合が高い小中学校計22校に訪問調査

共通する取組のうち、「実質的なPDCAサイクルの構築」及び「児童生徒のつまずきをていねいに把握」は、全国学力・学習状況調査の趣旨そのものでもあると言える。

#### 教育委員会が行う学校支援の例

学校と認識を共有し、実態に応じた効果的な支援を実施

- ・ きめ細かい指導のための人的支援
- ・ 独自の調査実施を通じた、特に課題のある学校に対する優先した支援
- ・ 若手をはじめとした教員の育成・指導力向上のための人的支援
- ・ 中学校区を核とした、小中一貫した取組、保護者や地域との連携
- ・ 学校共通の目標・方針や、学習指導に当たって最低限取り組むべき要素の提示

#### 成果の上がった学校に共通する取組

1. **実質的なPDCAサイクルの構築**：学校のおかれた現状を直視し、明確な課題意識の下で、全校の教職員が認識の共有化を図りながら粘り強く同じ課題に取り組む
2. 家庭の協力を得ながら、児童生徒の成長を粘り強く評価し、後押しする
3. **児童生徒のつまずきをていねいに把握し、スモールステップ**でわかるようになるまで取り組ませる
4. 児童生徒の教え合い、学び合いと教員同士の教え合い、学び合いにより、学校全体に活気を生み出し、好循環を起こす



# 3. 学習指導要領の改訂等に、教科調査を通じて得られた知見を活用

## 学習指導要領の改訂に当たって、本調査によって把握された課題等をエビデンスとして活用

○過去の調査で課題が指摘された事項（平成28年12月21日 中央教育審議会答申より）

教科	課題が指摘された事項
小学校国語	文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること
	目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること
中学校国語	伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること
	複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること
小学校算数	基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること
	事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること
中学校数学	数学的な表現を用いた理由の説明

### 【中学校国語の例】

■複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること  
 （平成26年度 B 2 一 正答率31.7%）

### 【課題となる事項】

複数の資料を比較して読み、目的に応じてそれぞれの要旨を捉えること

### 【現行学習指導要領】

○〔第1学年〕の〔読むこと〕において「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」と記述。

○〔第2学年〕の〔読むこと〕において、「多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。」と記述。



課題を踏まえた措置

### 【新学習指導要領】

○〔第1学年〕の〔知識及び技能〕において、「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」と新たに記述。

○〔第1学年〕の〔思考力、判断力、表現力等〕の〔読むこと〕において、「目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。」と記述。

○〔第2学年〕の〔思考力、判断力、表現力等〕の〔読むこと〕において、「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。」と記述。

### 【新学習指導要領解説】

情報の適否を見極めながら自分の目的に応じて整理すること等の重要性を強調。

# 3. 学習指導要領の改訂等に、教科調査を通じて得られた知見を活用

## 学習指導要領の改訂に当たって、本調査によって把握された課題等をエビデンスとして活用

○過去の調査で課題が指摘された事項（平成28年12月21日 中央教育審議会答申より）

教科	課題が指摘された事項
小学校国語	文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること
	目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること
中学校国語	伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること
	複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること
	文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること
小学校算数	基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること
	事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること
中学校数学	数学的な表現を用いた理由の説明

### 【小学校算数の例】

■基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること

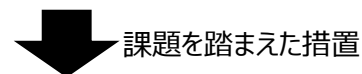
（平成24年度 A3 正答率 (1) 34.3% (2) 41.3%）

### 【課題となる事項】

- 「白いテープの長さ×0.6＝赤いテープの長さ」という事実を問題文から読み取る
- 「1に当たる数量（基準量）＝白の長さ」、「比べられる量（比較量）＝赤の長さ＝120cm」、「割合＝0.6倍」という関係を捉える
- 0.6に当たる長さが120cmである場合、1に当たる長さが何cmかを求める計算として除法を捉え直す

### 【現行学習指導要領】

〔第5学年〕の「数と計算」において、「乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。」と記述。



課題を踏まえた措置

### 【新学習指導要領】

〔第5学年〕の「数と計算」において、「乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。」（思考力、判断力、表現力等）と記述。

### 【新学習指導要領解説】

数直線を用いて乗法及び除法の意味を捉え直す方法について解説。

# 4. 高等学校入学者選抜にも思考力等を問う出題がなされるようになった

全国学力・学習状況調査においては、思考力等を問う問題を出題しているが、高等学校入学者選抜においても、そうした思考力等を問う問題が出題されている。

## 問題例・国語

## 資料を作成して発表をする際の効果的な流れについての自分の考えとその理由を文章にまとめさせる問題


### 全国学力・学習状況調査（平成 27 年度）

【フリップ】

**1 オカリナとは**


- ハトに似た形の笛
- イタリア生まれ

イタリア語では「小さなガチョウ」



**2 オカリナの特徴**

吹き口、音色は？、材質は？、指穴の数は？



**3 気軽に楽しめる**

- リコーダーと似た指使い
- 持ち運びやすい大きさ
- 簡単な曲ならすぐ吹ける！！

【ノート】

発表の流れ	その他の情報 ※ 状況に応じて使用する
■ 聞き手を見てから話し始める	
○ 始めの言葉	
1 ○ オカリナはハトの形に似た楽器。	
○ イタリアで生まれ世界に広まった。	
○ イタリア語では、「小さなガチョウ」という意味である。	※ ガチョウの形の形に似ている、体の様々な説がある。
■ 問いかけて聞き置く	
2 ○ 材質は？→未焼きの陶器のものが多く。	※ プラスチックのものもある。
○ 音色は？→吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出る。	
○ 指穴の数は？→12個が多い。（表側に10個、裏側に2個）	※ イタリアでは、10個が多い。
3 ○ リコーダーと同じような指使い。	
○ ポケットに入るくらいの大きさ。	※ いろいろな形や大きさのオカリナがある。
○ 簡単な曲なら、すぐ吹けるようになります。吹ける曲が増えるほどますます楽しくなる。	
■ 質問がないか尋ねる	
○ 終わりの言葉	

1 森田さんは、国語の時間で、自分の好きな楽器についてスピーチをする番になり、オカリナを選びました。次のようにスピーチを準備し、発表しました。

2 フリップとノートの両方に書き加え、発表の準備をします。

3 ノートとフリップにそれぞれに書き加え、発表の準備をします。

三 森田さんは、聞き手に一層興味をもってもらうために、発表の中で、オカリナを実際に演奏することにしました。あなたなら、どのタイミングで演奏しますが、次の＜演奏するタイミング＞のA、Bから一つ選び（どちらの＜演奏するタイミング＞を選んでかまいません）、その＜演奏するタイミング＞を選んだ理由を、後の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

＜演奏するタイミング＞ A 【フリップ】 ②の説明のとき。  
B 【フリップ】 ③の説明のとき。

条件1 【ノート】の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。  
条件2 五十字以上、八十字以内で書くこと。



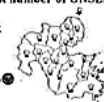
### 高等学校入学者選抜問題（平成 29 年度 大分県）

【五】 中学生の村田さんは、大分県でも開催される「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」に関するホームページから、次の【インタビュー記事】を見つけた。これを読んで、後の問一～問三に答えなさい。

【インタビュー記事】

（ラグビー日本代表選手へのインタビュー記事）  
「日本にしかできないおもてなしがたくさんあると思います」という部分に ② が付されている。

問三 ②について、村田さんは「総合的な学習の時間」で、大分県を訪れる外国人のおもてなしとして、中学生にできることをテーマに学習に取り組んでいる。村田さんは、実際に外国人に温泉を紹介する場面を想定し、次の「コメントの内容とフリップ」を作成した。④、⑤の順番で紹介しようと考えている村田さんに、より効果的な紹介にするために順番をどのように改めるかをアドバイスするとき、あなたはどのように述べるか。村田さんへのアドバイスを、後の条件に従って書きなさい。

コメントの内容 ※本音では英語でスピーチ	フリップ
○ 始めの言葉	
④ 温泉を楽しむためのマナー	④ <b>MANNERS</b> [マナー] There are many manners you must keep. [守るべきマナーがあります] 
○ マナーを守ることでみんなが温泉を楽しむ (例) →水着を着用しない →湯ぶねにタオルを入れない	
⑤ 温泉の効能	⑤ <b>EFFECTS</b> [効能] ONSEN has various effects. [温泉にはいろいろな効能があります] 
○ 温熱による疲労回復や健康増進 ○ リラックス効果によるストレスの軽減 ○ 人とのコミュニケーションが楽しめる	
⑥ 大分県にある温泉	⑥ <b>SPOTS</b> [場所] Oita has the largest number of ONSEN in Japan. [大分県の温泉総数は日本一です] 
○ 湯元総数は日本一（427） → 4,381 箇所 → 県内 16 の市町村で湧出 （大分県ホームページから）	
○ 終わりの言葉	

条件  
前半には、順番をどのように改めるかを書くこと。④、⑤、⑥の記号を用いてもよい。  
後半には、そのような順番に改める理由を具体的に書くこと。  
・ 敬体で「です・ます」で、八十字以上百二十字以内で書くこと。  
・ 本文を一行目の一マス目から書き始め、行は改めないこと。

# 4. 高等学校入学者選抜にも思考力等を問う出題がなされるようになった

全国学力・学習状況調査においては、思考力等を問う問題を出題しているが、高等学校入学者選抜においても、そうした思考力等を問う問題が出題されている。

## 問題例・数学

スティックの模様や将棋の駒の文字の出る確率について樹形図をとおして考えさせ、その理由と共に文章にまとめさせる問題

### 全国学力・学習状況調査（平成 26 年度）

5 昔のアメリカに、棒を投げて得点を競う「スティックゲーム」と呼ばれる、子供の遊びがありました。

スティックゲームの遊び方

① 4本の棒を準備し、それぞれの片面にいろいろな模様をかき、その面を表とする。

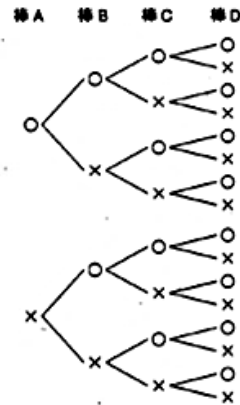


② 4本の棒を同時に投げ、表と裏の出方に応じて、右のように得点を決める。

4本表、0本裏	…5点
3本表、1本裏	…2点
2本表、2本裏	…1点
1本表、3本裏	…2点
0本表、4本裏	…5点

③ あらかじめ決めておいた回数だけ②を行い、得点の合計の高い方を勝ちとする。

樹形図

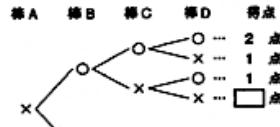


優菜さんと桃花さんは、このスティックゲームに興味をもち、の棒を1回投げるときの各得点のとりやすさについて考えることになりました。

右の樹形図は、このときの表と裏の出方について、4本の棒をA、B、C、D、それぞれの棒の表をO、裏をXとして、すべての場合を表したものです。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。ただし、棒の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

(1) 下の図は、前ページの樹形図の一部を取り出して、それぞれの場合の得点を書きこんだものです。□に当てはまる得点を書きなさい。



(2) 二人は、この遊びをくり返しているうちに、この得点の決め方は、4本の棒を1回投げるとき、1点より2点の方がとりやすいのではないかと考えました。

1点より2点の方がとりやすいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を使って説明しなさい。

ア 1点より2点の方がとりやすい。

イ 1点より2点の方がとりやすいとはいえない。

### 高等学校入学者選抜問題（平成 30 年度）

都道府県の意向により、ホームページへの掲載不可

# 5. 教育現場において、データを活用したPDCAサイクルが定着した

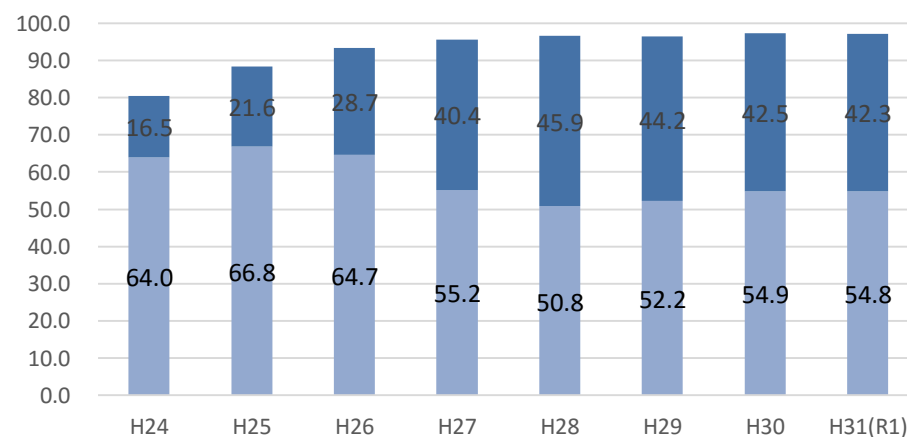
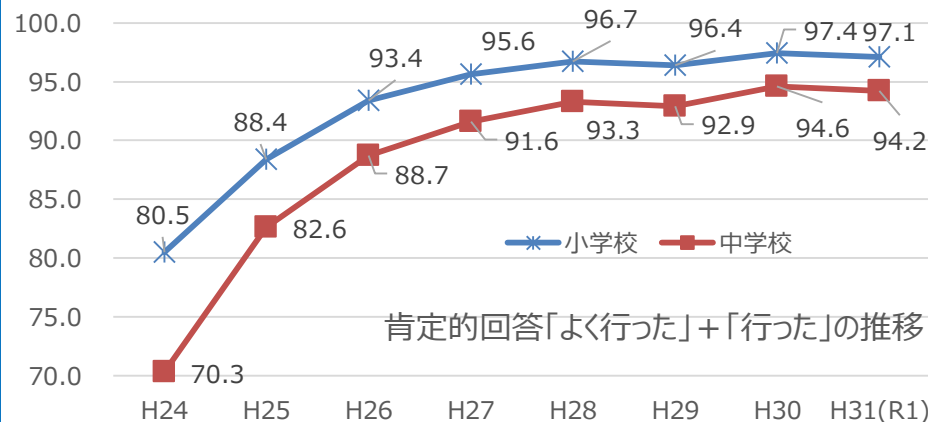
## 都道府県教育委員会

項目		実施率
過去の調査結果の分析・検証		100%
調査結果の分析・検証の有用性		100%
調査結果を踏まえた教育目標の見直しや改善計画の策定等		97.9%
調査結果を踏まえた施策への反映 (複数回答可)	以下の①～④を1つ以上実施	100%
	①指導資料や教材の作成	100%
	②教職員研修・授業研究等への支援	97.9%
	③教職員や非常勤講師の配置等の配慮	51.1%
	④その他の取組	19.1%
調査結果を踏まえた取組等の地域住民への周知・啓発		97.9%
調査問題や授業アイデア例を用いた指導改善のための研修等		95.7%
学校に対する調査結果の活用を促す指導・助言		100%
学校における調査結果を踏まえた取組等の家庭や地域への周知・啓発の促進		97.9%

出典：平成25年度全国学力・学習状況調査「教育委員会に対する調査」

## 学校

前年度調査の自校の分析結果について、調査対象学年だけでなく学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合の推移



肯定的回答の内訳（小学校） ■ 行った ■ よく行った

出典：全国学力・学習状況調査学校質問紙

# 平成28年度に10年間の全国学力・学習状況調査の総括

## 「全国的な学力調査の今後の改善方策について」（まとめ）を公表

（平成29年3月 全国的な学力調査に関する専門家会議）

「全国的な学力調査に関する専門家会議」において、10年間を総括し、今後の具体的な方策を提言。

### ◆より充実した調査にするために～具体的な改善方策～

- 調査の結果提供の早期化 →平成30年度から1ヶ月早め、7月末（夏休み中）に提供
- 学習指導要領改訂を反映した調査問題や質問紙調査項  
→平成31年度より、従来のA問題（知識・技能）、B問題（活用）を一体的に問う問題へ
- 中学校英語調査を平成31年度から3年に一度程度実施 →英語4技能の調査を開始
- 本体調査を補完するものとして経年変化分析調査と保護者調査を実施 →令和2年度実施
- 大学等の研究者等に対する個票データ等の貸与・公表 →平成30年度から貸与開始